

もっと知りたい 医者だけが知っている本当の話

Tokyo Do Clinic 院長 内海聡 真弓小児科医院院長 真弓定夫 ヒカルランド

(社会毒は健康に大いに関係する) ~先住民とか野生動物を見習いなさい~

という基本的な原則がある、先住民がなる病気の急性疾患は西洋医学で今ではだいぶ助かる、今一つは感染症、人類永久不滅のテーマで本来これしかない。

“陰陽五行で世界は成り立っている” ~五臓は他の臓器ともつながっている~
肝臓は筋肉、目と関係して目が疲れる、怒りの臓器でガミガミ怒っている・肝臓がんになる人は怒っている肝臓をなくしたいからそこに病気を作る、皮膚は肺、腎臓は骨・耳(不安恐れ)感情) 肺は鼻・辛い食べ物に関係する・悲しみとか憂い・罪悪感・弱っていると排泄ができていない・現代人にすごく多い、脾臓は口・思い患いで口周りのぶつぶつ、心臓は喜びの臓器・転じると嫉妬、胃がんは感情的に処理できてない・したくない・消化できていないことが関係していく。

“病気に見る精神的なもの” ~水素水は活性酸素をブロックするからいいけれど精神と物質の両方が重ならないとあまりよくなる「腑に落ちる」事が必要。乳がんの患者さんに聞いて・お父さんの影響でなっている等9割以上当たる。難聴は分かり易い、聞きたくないから耳をつぶしたいウイルス性疾患とは関係ない・芸能人でいっぱい突発性難聴になっている理由が分かると改善していく。

「自分の軸がしっかりすれば病気は治る」日本人始め世界中の人は全員依存症・こういうのが大事だと分かればもう凄くむつかしい病気でも病院に来なくなる。

「心身一如はトレンドでやっていないのは日本だけ」~ヨーロッパなど古典的な考え方を凄く見直して東洋医学でいう心身一如の両面からやろうとしている。

Part 1 もっと知りたい・医者だけが知っている話

Q&A~予防注射は効かないのですか?~ワクチンなんか論外です予防効果がないどころか他の病気を作るのでやってはいけない、政府とか製薬会社の締め付け、母子手帳で予防接種をしたりしているのは米国で作られ国内ではよくないということで廃止されている。日本は世界で一番とっていいほど奴隷の国で牛乳とかパン食など欧米化政策・米国が昭和20年から優れた日本国民を見て再び戦いを起こさない様に日本人に合わない牛乳を飲ませ弱い体質づくりのために母子手帳等を作って徹底させた。

Q&A~健康とか元気とかは何ですか?~快食・快眠・快便で元気で機嫌がよくて食欲があつてよく眠れていればいいです。

Q&A~これからの学校教育はどうしたらいいでしょう?~子供のうちに自分のことは自分でせよ、としっかり自分で考える教育をする、人だつて動物であり他の動物は全てその動物の親・祖父母のすることを見よう見まねで大きくなっていく、昔は子供中心の教育をしてそれから小学校に入れていた、 P 1

今では保健所・教育委員会・大学病院・マスコミが欧米人の都合のいいように劣化させてから学校に入れている、親が生活の中でお手本を見せることです。

Q&A～戦前の医療はどうだったのですか？～終戦前はまず病院へ行く人はほとんどいなかった、病気は自分で治す、病院がいかに間違っているか衣食住全般に言える、学校給食のパン・牛乳・パスタは日本人に合う筈のないものを食べさせている昔はほとんど自然死で結核が昔は多いというけれど亡くなられた方は戦前の人口10万人対比200人前後で大往生の方が多く殆どは自然死だった、今では10人の内9人以上が病院なんかで死んでいる医療費はこの60年で170倍にもなってしまった。

Q&A～**波動医学って何ですか？**～ヨーロッパで主流になりつつある先端技術です精神的・物資的な両面からきちんと診る・そう考えるのが基礎中の基礎です人間以外の動物は全て自分の波動に合った生活をしている、日本人も昭和20年まではそうだった、今の日本人の欧米化した生活は日本人の波動に合う筈がない、波動が一番大事です。

Q&A～反抗期の子供はどうすればいいの？～反抗期という言葉が生まれたのは戦後の事、昔は親の言う通りにしていた要するに親が崩れてきたからそれを批判する子供が出てくる、大家族ではお爺ちゃんやおばあちゃんが子供の聞き手で話し合っていた、戦後そういう子供を育てる場が失われてしまった、今一つは兄弟が少ない、多いとそこでケンカして成長していく。

Part 2 「子育て」から「子育ち」へ～真弓定夫

Q&A～日本人の歯はどうして弱くなったのですか？～昭和20年迄は自宅分娩で全部母乳保育、それ以降は粉ミルクを飲まされている子供が沢山いる哺乳瓶の吸い口は大きな穴をあけ飲み易いのが最大の誤り母乳は非常に小さい穴だからものすごく努力が要り吸う力が自然についてくるそれが将来的に咀嚼力に替わっていく、ある小児科医さんは母乳吸引力が60倍も苦勞を要すると更に哺乳食でもベビーフードなど軟らかい幼児食で差が大きくなっていくと顎の小さな子供は大体において身体も弱い更に噛むときに使うのは顎だけでなく舌をうまく使わないと呑み込めない、言葉遅れの子供は軟らかい食べ物が原因、そういう子供は硬くて大きな離乳食を与えると面白いように言葉が出てくる、断乳の時期は大体2歳前後で、その時期位になったら父母と同じの硬さまで9ヶ月かけてゆっくり持っていく。

Q&A～うつ病を治すにはどうすればいいのですか？～躁病も鬱病も気持ちの波で生活環境のバランスが大切、そのために友達と趣味が必要、どんどん自分の意志や気持ちを発散できる人は鬱にならない、小学校に入るまでの群れを成して外で遊ぶ欠落が将来的な鬱を増やす最大の原因、遊ばせていれば大抵の病気は治ってしまう。

Q&A～親は子供にどういう言葉を使ったらいいのでしょうか？～ありがとう！立派です！という誉め言葉を言ってやればいい、子どもの能力は親より高い自分が言われたら嫌な言葉を使わない「**ありがとう！**」を**頻繁に使う**と子供はどんどん伸びていく、今のお母さんは「しなさい」「してはいけない」を言いすぎる禁句として親が黙ってやって見せてあげ続ければいい子供は親を見習っていきます、子供に言われたらどんどんやる大人も子供も本の選択と読むことは全て大事です。

Q&A～花粉症の原因は花粉ではないのですか？～自動車の排気ガスが大気汚染で喘息・花粉症・アトピー性皮膚炎の原因どんなに花粉が飛んでいてもそこに排気ガスが入っていなければ原因とならないので引っ越しも一つの方法。

免疫力を高めるために牛乳・コーラ等をやめ普段の食事が大切、運動して体温を上げ免疫力を高める。低体温が一番いけません、楽しく過ごすことです。

Q&A～お医者さんが癌になったらどうしますか？～名古屋で癌の人たちばかりの集い「いずみ会」があり全く癌治療はせず生存率を毎年高め 90 数%です。心の持ち方が一番、大事なことは笑うこと・深呼吸・歌を歌ったり楽器を吹いたりすることが大事、私のある友人が「あなたが癌になったら抗がん剤を打ちますか？」と 271 人の医者聞いたら使うと答えた人は、たった一人残りの人は丸山ワクチンを使ったり免疫療法をすると答えている、私の家内は 43 歳で癌になり家内の意志で抗がん剤も手術も断り 30 年後に他の病気で亡くなった、だからアドバイスとして癌の三大療法はできるだけしない事と、よく笑い、友人をつくり対話する事です。

Q&A～脱毛症は治りますか？～朝シャンは最悪で、シャンプーは厳禁です。

Q&A～80 歳過ぎてもお元気なのはなぜですか？～髪も黒く、眼鏡もかけていない～やっぱり日本人に合った食事です、私の元気の秘訣はお酒を欠かさない事で 60 年間休肝日なし、一人で飲み過ぎないで友達と飲むと楽しい。

Q&A～ひきつけを起こしたら、どこに気を付けたらいいですか？～取りあえずは体温を測ること、高い体温では怖い病気はほとんどない、低体温だと癲癇・脳腫瘍など怖い病気も、いずれにしても病院に行くことが無難です。

Q&A～“理想の子育”ってあるのですか？～子育てをしてはいけない“**子育ち**”です！ほかの動物はみな**子育ち**をしています、余分なことはしない。

Q&A～子供は産むのではなく“生まれてくる”？～生まれるときにお腹に入る前に赤ちゃんは心があるから「**自分でお父さんお母さんを選ぶ**」～産婦人科の池川先生は大勢の子供で 2 歳位までの子に「生まれる前はどうか？」と、直接聞くと父母ともに受胎する前に自分で選んだという例が沢山あります。お腹の中にいる 280 日間は生まれてからの 80 年間よりも大事で一つの卵から 3 kg で生れるまでに大きさでは 30 億倍にも増えている

「**ブラゼルトンの反応**」とは小児科医が生まれたばかりの赤ちゃんを医者が抱っこしてお母さんが声をかけても振り向かない赤ちゃんがいる、そういう子はお腹の中にいる間に夫婦の間がうまくいっていなかったとか暴力行為があった場合、もっとひどいのはもっと早くに胎児がお腹の中で自分の両親から望まれていないと波動で分かると呼呼吸を止め流産してしまう（胎児の自殺）

Q&A～人間は死期が分かるのですか？～中村天風さんはある時幹部だけ呼んでまだ元気そのものの状態で“私はあと3日でこの世を去る、3日で後継ぎができるようにこれから言い残すからしっかり聞いてくれ”と言って見事に3日後にはこの世を去った、病気ではなく天寿を全うされた。野生の動物も皆死期が分かり死ぬ場所に行くため通常は死体を見ることはない。

Q&A～**見えないものはどれだけ大事ですか？**～健康を考える場合80%は見えない精神的なものを大事にする、見えないものの方がはるかに多い、私は臨死体験を中学生の頃に体験、柔道を先生相手に絞められ「参った」と言わなくて意識がなくなった、その時360度見える・とにかく気持ちがいい・友達全部が駆け寄ってくる先生が一生懸命に“活”を入れている・それが全部見えている活がきいてスーと意識が戻った。あるお子さんが交通事故で植物人間になって3ヶ月で退院させられることで医師に相談すると「別の病院に行かなくていい方法は例えば足は全く動かないから切断しましょうか？」と云った、お母さんはとんでもないと言って転院その後に子供の意識が奇跡的に戻ってきた時に娘さんが「あの時お母さんが拒否してくれたから私の足は残っている」と感謝された、周囲の人は皆、植物人間だから何も分からないと思っていたが、全て分っていた。

Q&A～**丸山ワクチンは効果があるのですか？**～私の家内は余命2年といわれたが丸山ワクチンで30年も長生きして別の病気で亡くなった。私のところには病院から見放され丸山ワクチンを打ちに来る人が現在11名来院中で皆さんが元気になっています（丸山ワクチンは20本で9千円と安く週3本程度）抗癌剤は1本で10～20万円で病院経営上全く違うところ、医師が癌になると癌の三大治療を受ける人は殆どいない、丸山ワクチンを使っている人全体では39万人の内、職業で一番多いのは医師です。

Q&A～“三つ子の魂百まで”って、本当ですか？～受胎した時も含めて3年と考えた方がいいお腹の中が一番大事で昔ほどこの家庭でも**胎教と妊婦さんの健康を大事にしていた**。子供は言葉で言っても中々習得しないのでお母さんがしてほしいと思う事を実際に自分でやって黙って子供に見続けさせて根気よく自然に習得させていく、このようにお母さんと一緒に育った子供は特に心の面で大きな差が出てくる。一人っ子の場合にはべたべたし過ぎになるので保育園・幼稚園で年の差の子供達と一緒に遊ばせる事も大事です。 P 4

Q&A～“紙おむつ”はなぜ悪いのですか？～昔は「おむつ離れ」は1歳半だった、それが2～3歳は当たり前・小学1年生でしていたケースもある程で今の紙おむつは99%石油製品で排尿感覚が育たない為におむつ離れが遅くなる、そして大人になってアレルギー疾患が増えている（喘息・アトピー性皮膚炎・夜尿症などの人が2～3%もいる）これも大問題だと思います。

Part 3 日常で気になる医学の知識～内海聡・真弓定夫

Q&A～“歯科矯正”はなぜ増えているのですか？～先住民に関する有名な本でウエストン・プライス博士は先住民の顎はすごく丈夫で歯並びもいい虫歯も全然ないということが分かっていると、今では歯並びはめちゃくちゃで**矯正するなら食事指導が絶対に必要、しっかり噛む・自然食をしている人に歯並びの悪い人はいません**、歯は非常に敏感な組織なので1ミリずれるだけで精神的に難しくなることが分かっている、目が悪くなっているならお菓子が一番悪く、薬漬けも牛乳・ジュース・スポーツ飲料も糖分だらけ、塩水を飲めと言いたい位です。

Q&A～“肉の食べ方”で何に気を付けたらいいですか？～畜産されている肉は非常に危険です、ホルモン剤・抗生物質・ワクチンを打たれ狭いところに閉じ込められ育てられてストレスもかかり栄養も下がり医学的にいいところなし。

Q&A～“油”について気を付けるところは何か？～どの油も危険で加工がインチキ大量生産、昔ながらの作り方の油を探す・植物油は生でサラダに使うマーガリンは最悪です、いわゆるトランス脂肪酸で米国では禁止に踏み切るそうで、ヨーロッパでも規制又は禁止それが野放しなのは唯一日本だけです。日本の給食問題は牛乳とマーガリン・パンで**有名な逸話「給食で死ぬ」**という本がある、著者の大塚貢さんは給食をやめて普通の食事に変えたら不登校も苛めもなくなり成績が上がった、と彼は中野で学校長をしていた・西村修さんと共同で本を出し各地で今も講演されています。

Q&A～“塩と水”は何に気を付けたらいいですか？～塩も米国の日本劣化政策で精製塩（食卓塩）という悪い塩を皆に食べさせるようになった。**天日で干した昔の塩を摂っていれば塩分量を気にする必要はない**、食卓塩は絶対にダメ水は水道水を使うなら浄水器を付けるだけでも鉛とかアルミの入っている毒性の塩素を少しは防げます。

Q&A～“知的障害の子”と、どうかかわればいいのか？～ほとんど大半の子は昔でいう障害レベルでないのにそう扱われている、なんでそういう子供たちが生まれたのか？というところを考えなければいけない、まず障害という観念を止めるべきで特殊能力者、IQは全く信頼がおけないもので70とか80で今では障害といわれる、僕に言わせれば普通の子、薬漬けにして危険だと思われるがわたくし的には一般の人の方がよっぽど危険です。 P 5

彼らはすごく穏やかな人たち、むしろ一般の人に悪い毒気を当てられて対応できないでトラブルを起こすことがほとんど、その人達を観察すると違法ドラッグか向精神薬を飲んでいる方が頭をやられてしまう、あとはアルコールを飲みすぎ・タバコも奇抜な行動をとりやすくなる。

(**あしがき**) 真弓定夫

医者にかからなくてもいい人が沢山いる、どういう時にかかればいいのか？医療費はなぜ増えたのか答えは簡単で昭和20年以前に比べ日本人に合わない生活をしてきたからです（牛乳を飲む様になった人が7~8割）それ以前はまずいなかった皆が哺乳動物として育て病気になるなかった、だから医療費が170倍・米国が日本人を劣化させるためにあらゆる手段を使って考えた事、**内藤寿七郎内科医は昭和天皇の侍医をしていた**、その先生が牛乳を飲んでいる子供は母乳栄養児の**20倍も病気になるという本を書いている**、今は絶版ですが図書館で絶対読んでください。

- * 病院出産だから病気が増える～自宅出産で野生動物と同じような出産をすれば限りなく病気は確実に20分の一になる。牛乳を止めるだけで病気は20分の一になるということをしっかり覚えておいてください。保健所・教育委員会・大学病院はじめそれを広めているのが朝日・読売・毎日新聞・マスコミだということです
 - * 医食同源で大切なこと～昭和20年迄は自分が住んでいる土地の三里～四里四方の食べ物を食べていれば病気にならないといわれていた、自給が非常に大事です、次に四季に合った食べ物を食べる、石塚左玄さんは軍医だったが食にも造詣が深く、夏は酢の物・秋は辛み・冬は油と心して食べと（春のフキノトウ・菜の花・セリ・ゼンマイ等）当然カロリーも低い、カロリーの高いものを子供に食べさせてはいけない・体がどんどん大きくなってしまふ、明治大正時代の平均身長は150cmもなかった。
- 調味料の塩・みそ・しょうゆ・酢は子供の病気を確実に20分の一にする。
- * 箸置きは何のためにあるのか？～一番大事なことはよく噛むこと、一口入れたら箸をおく、よく噛んで口の中のものがなくなったら次の食べ物を口に入れる、そうすることで食べすぎを防止できる・病気になる率も減ってくる。そして感謝の気持ちを持つことです、食べ物は全部生き物だから植物・動物に対して食べる前と後に「命をいただいてありがとう！ご馳走様！」 そういう気持ちで食卓に向かう、親が一人一人自分の考え方をしっかり子供に伝えていく、食事はそれぐらい大事なものです！どうもありがとうございました。

(完)

